

令和4年4月1日

令和4年度 学校経営方針

中央区立月島第二小学校

校長 柄澤 武志

1 教育目標と目指す児童像

[教育目標]	[目指す児童像]
・よく考える子ども	・自ら学び、考え、行動する創造性豊かな子ども
・心の豊かな子ども	・自他を認め合い、思いやりと社会性のある子ども
・たくましい子ども	・心身共に健康で、郷土の伝統文化を愛し、社会に貢献できる子ども

教育目標は、学校と保護者、地域が共通認識としてもつ目標であり、常に意識しながら児童の成長を促し、支援していきます。

2 学校経営の基本的な考え

「笑顔輝く月二の子 共に育つ月二の子」をモットーに、児童・保護者・地域と学校・教師が共に育つ学校を創造していきます。

子ども自身の手で未来を切り開くための資質や能力を明らかにし、主体的・対話的で深い学びを通じた教育活動を推進します。また単に知識・技能の習得だけではなく、思考力・判断力、表現力等の育成を図ります。

保護者・地域の思いを尊重し、子どもが社会に出たときに、人生を幸福で豊かなものにするために、小学校教育で担うべき役割を明確にし、発達段階に応じた意図的・系統的な教育活動を計画的に行います。

(1) 育成すべき資質・能力

①資質

・自律性 ・主体性 ・協働性 ・創造性 ・継続性

②能力

- ・基本的な知識・技能を習得する力及び活用する力（基礎力・応用力）
- ・物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）
- ・主体的、論理的に物事を考え、判断し、行動できる力（論理的思考力・判断力・表現力）
- ・創造的に考え、言語や文章で表現することができる力（創造力・表現力）

- ・他者を思いやる心（他者認識力、洞察力）
- ・人との関わりを円滑にできる力（コミュニケーション力）
- ・最後までやり遂げる力（実行完結力）

（２） 本校が進める教育活動

①教育目標「よく考える子ども」

主体的な「課題解決能力」及びその基盤となる「思考力・判断力・表現力等」の育成

- ・児童が主体的に考え、判断し行動できる教育活動を授業や学校行事の中で意図的に設定します。
- ・授業の中では、問題解決型の授業を行い、自分の考えをもつ場面を設定し、話し合い（対話的な活動）や協力して行うグループ活動（協働的な活動）を多く取り入れ、児童同士が互いによりよい問題解決ができるようにします。
- ・個に応じた指導を充実させ、児童が主体的な学びができるようその基盤となる基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力の定着を図ります。
- ・ICT機器を効果的に活用し、これからの社会を生きるために必要な学力、コミュニケーション力を養います。
- ・学習規律を徹底しながら、児童一人一人の学習意欲を喚起するとともに、ユニバーサルデザインの視点から授業改善を行い、児童にとって「分かる・できる・楽しい」授業の構築を目指します。

②教育目標「心の豊かな子ども」

自他を大切にし、互いに高め合おうとする「豊かな人間性」の育成

- ・全教育活動を通して、生命を大切にし、他者に共感できる感性や思いやりのある豊かな人間性を育成します。
- ・道徳科の授業を充実させ、児童が自己の行動を振り返ったり、物事を多面的・多角的に考えたりする機会を意図的・計画的に設け、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てます。
- ・学校行事や特別活動等の取組を通して、最後までやり遂げる力（実行完結力）を育てるとともに、人との関わりを円滑にできる力（コミュニケーション力）を養います。

③教育目標「たくましい子ども」

主体的に心身ともに健康な体をつくる能力や態度の育成

- ・毎日の健康観察、定期的な健康診断、発育測定等の機会を通し、児童が主体的に健康づ

くりを行う態度を育成します。

- ・マイスクールスポーツの「なわとび」の活動を年間通して行うことで、体力の向上を図るとともに、あきらめずに取り組む強い心を育成します。
- ・スポーツへの興味・関心を高め、生涯にわたりスポーツに親しむ心と体の素地を育成するとともに、スポーツを通じた人とのつながりを大切にし、社会の発展に貢献できる人間的基盤を培います。

(3) 教育活動を進めるための考え方

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止策を積極的に講じ、安全・安心の学校運営に努めます。また、休校措置がとられた場合でも、児童の学びを止めない工夫をしていきます。
- ・一部教科担任制を導入することで、教科に関する教師の専門性・指導力を高めながら、質の高い授業を目指します。また、児童への指導（学習・生活）は、学年組織が主体的に行い、学校全体でも情報共有をしていきます。
- ・個人面談と通知表により、保護者に年4回、児童の学習状況を伝えます。長期休業前の個人面談にて学習状況をお知らせし、その上で個々の課題に対する取り組みを行い、通知表を発行するというシステムを年2回行います。このことで、より丁寧に学習状況を保護者・児童に伝え、児童の学力向上を図ってまいります。
- ・特別支援教育を充実させることで、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会を形成する人間としての基礎を養います。そのために、教育的ニーズを把握し、個の課題に応じた指導を行うとともに、障害のある児童とない児童が同じ場で共に学ぶことを通して、障害者理解を推進してまいります。
- ・地域の学校として、常に評価・改善しながら、地域と協働した教育活動を展開します。

3 目指す学校像・教師像

(1) 目指す学校像 「信頼される学校」

子どもにとって、見本となる魅力ある教師が、分かりやすく、学力を高める授業を行うとともに、人との関わりを大切にしたい思いやりの心を育む教育活動を実践することで、豊かな人間性とよりよい人間関係を築き、子どもが生き生きと活躍する学校を目指します。

(2) 目指す教師像 「信頼される教師」

「教師こそ最大の教育環境なり」と言われるように、教育活動を実践する教師自身の成長が大切だと考えます。また、教師が効果的に教育活動を実践していくには、児童、保護者、

教職員との信頼関係の構築が肝要です。よりよい教育活動の実現のために、以下のような教師を目指していきます。

① 子どもが大好きで子どもの意欲を引き出す教師（学習指導）

- ・ 創意工夫した授業を行い、授業で信頼関係を築きます。
- ・ 規律ある授業を行い、授業で生活指導の基盤を培います。

② 温かく、厳しく愛情あふれる指導をする教師（生活・進路指導）

- ・ 目の前の子どものために何をすべきかを全ての指導の指針とします。
- ・ 教職員一人一人が子どもの幸福のためにプラス α の行動に努めます。

③ 児童・保護者・地域・教職員との信頼関係で結ばれている教師（学校運営）

- ・ 児童・保護者・地域の人々との語り合いを大切にした共感の教育を行います。
- ・ 子どもの姿が地域に見える教育活動を推進し、地域に根ざした学校をつくります。
- ・ 日々の教育実践の中で、教職員が協力し、互いに高め合う関係性を築きます。
- ・ 常に教育活動を見直し、よりよいものにしていくために改善に努めます。

（3） 目指す児童との「関わり」

教育は、多感で若き生命と関わっていく作業であるため、教師や保護者の思いがなかなか通じず、思うような結果が出なこともあります。しかし、子どもたちの可能性を信じて、地道に取り組を続けていくことが大切であると考えます。本校の教職員は、以下の点を指標として、粘り強く児童と関わりながら、日々の教育活動を実践してまいります。

- ・ 信じぬく
- ・ ありのままを受け容れる
- ・ 励まし続ける
- ・ どこまでも支える
- ・ 心をつなぐ